

能海寛生誕 150 年記念企画展

のうみ ゆたか

『能海寛の目指した世界平和』



能海 寛師

浜田市金城歴史民俗資料館

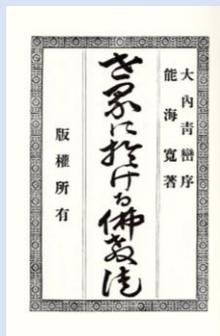
会 期 平成 30 年 5 月 1 日(火)～平成 31 年 3 月 31 日(日)
開館日 土・日曜日 am9:00—pm5:00
入館料 2 館共通(大人 300 円、中学生 100 円、小学生 60 円)
団体割引 25 名以上(休館日の見学を希望される団体は、事前予約願います。 ☎090-4697-2818

能海 寛 略歴

能海寛 法名法流。 石峰と号す。明治元年5月18日島根県浜田市金城町長田(当時は東谷村)浄蓮寺に生まれる。12歳で得度し、慶応義塾と哲学館に学ぶ。恩師南條文雄師の意思を継ぎチベット探検の論文『世界に於ける佛教徒』を発表すると共に語学の研究と山岳登山による体力の練磨をなす。郷里にあつては地方史を編纂して和歌を詠み、益田沖の高島にて寺小屋を開設する。哲学者、探検家、宗教家として釈迦直伝の大蔵経の経典を求め英訳経典世に出す目的で当時鎖国中であつたチベットへ求道のため身を挺し仏教巡礼探検を実践した功績は偉大で有言実行と用意周到さは後世に幾多の教訓を残す。その苦難の34年の生涯に「般若心経」西藏文直訳(梵・蔵・漢・英)など四巻が著書として永遠に伝う。



『新仏教徒』



『世界に於ける仏教徒』



『能海寛遺稿』



「護照」(旅券・ビザ)



四川省の「草鞋」



「滅十罪経」経典

能海寛生誕 150 年記念特別企画展

『能海寛の目指した世界平和』

浜田市金城歴史民俗資料館 浜田市金城町波佐イ 438-1

会期:平成30年5月1日~31年3月31日 開館日:土・日曜日

能海寛は生涯を通して「新仏教徒運動」の提唱と「宗教学」の確立に尽力した。能海は過去の歴史を検証して、世界では宗教戦争が絶えない事象を挙げて唯一、戦争の無い、「仏教」こそが、世界平和に繋がると確信した。そのためには、仏教のバイブルとなる経典を世に出すことが必要と考え世界の共通語である英語で経典をつくることを考えた。

ところが、玄奘三蔵は、7世紀(645)に天竺より仏典 675 部を西安へ持ち帰り翻訳した。しかし、サンスクリット語を漢字に置き換えた漢訳経典では文意が伝わらない。中国では、原典であるサンスクリット経典が既に存在しないため、自らが釈迦直伝のサンスクリット経典を入手して、英訳経典を世に出そうとチベット探検に取り組んだ。

11年の歳月を費やして用意周到に国内で、サンスクリット語、チベット語、英語、中国語をマスターした。そして、自からは、チベット探検行の企画・立案をして、東本願寺へ仏教探検の派遣申請を行った。その間において、英文会の設置、経緯同盟会の組織、土曜会の推進、降誕会の設置なども推進した。

哲学館在学中に、「純正哲学自解」を書き上げ、卒業後は、「世界に於ける仏教徒」を自費出版して、新仏教徒運動とチベット仏教探検の必要を提唱した。

世界 5 億の仏教徒を束ね、仏教の聖地・天竺で世界宗教会議所の設置と英訳経典を出し「一統宗教」を目指して行動を起こした。

能海は、チベットから無事帰国した暁には、小・中・高・一貫の全寮制の仏教学校の設置を計画していた。中国・雲南省の奥地で、若干 33 歳の若さで不帰の人となった。

※ 生誕 150 年の今日、今なお斬新な哲学・思想が脈々と生き続けている。

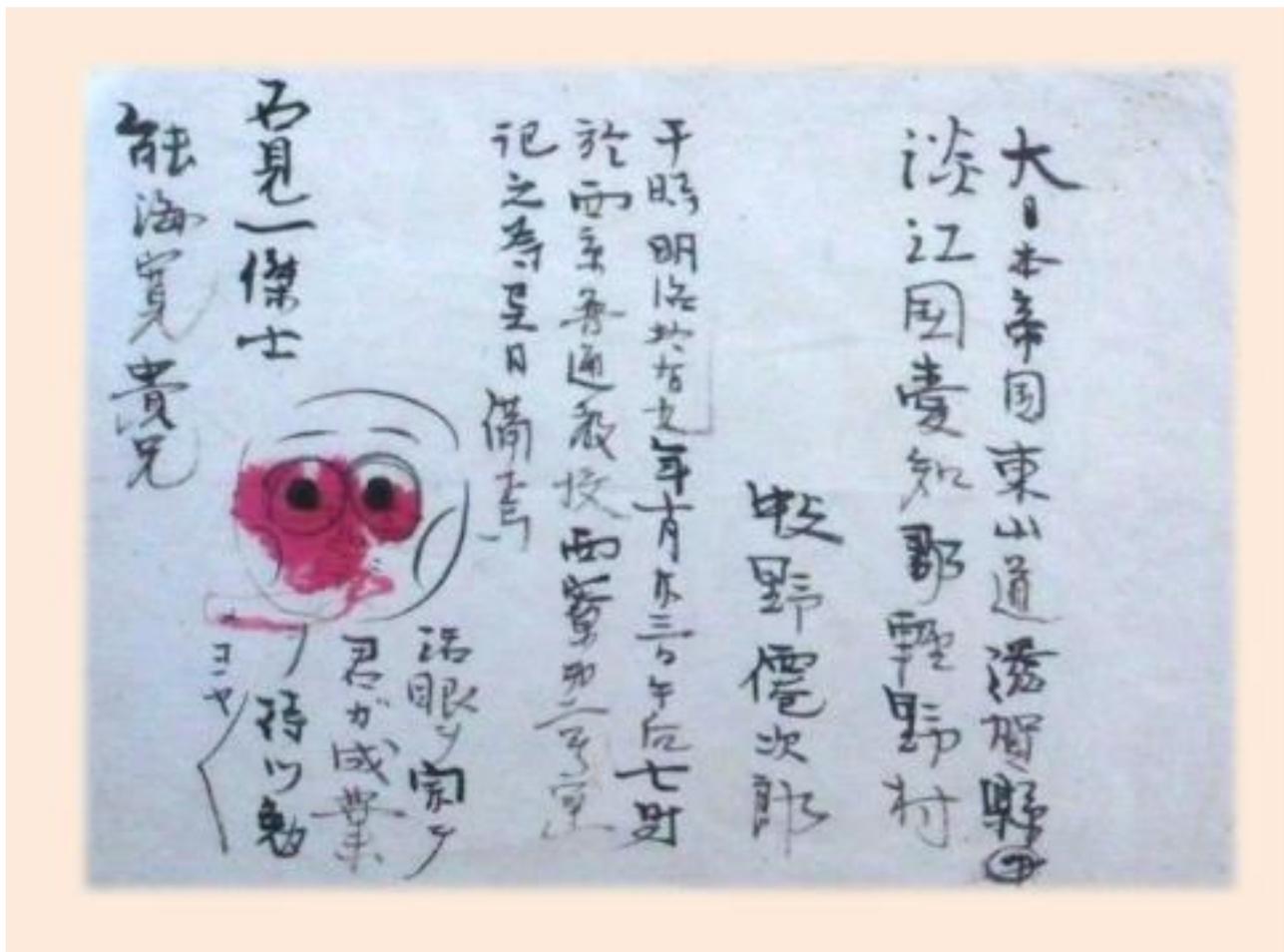


能海寛愛用の印鑑類

若くして自坊の蔵書の中から『大唐西域記』を 読み玄奘三蔵の仏教探検に興味を持った



中国唐の求法僧玄奘(げんじょう)の西域インド旅行記。12巻。629年(貞観3)に長安を出発し、国禁を犯して求法の旅に出た玄奘は、西域諸国を経てインドに至り、仏教教学の研究と仏跡の巡礼を行った。そして大部の經典をたずさえ、645年に帰国。その遊歴伝聞した138国(付記16国)の仏跡、風俗、生活などを編述したものが本書ある。

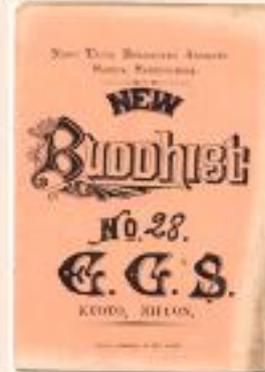


能海寛は明治19年10月23日に京都・普通教校西寮において、学友13名で、互いの将来の宿望を語り合った。その際、寛は、チベット探検を公言して友人らを驚かせた。この時の様子を友人の蚊野遷次郎が書き上げた文書が残っている。

寛は、**仏教を英文により発信**したいと考え、普通教校の同級生47名を束ねE.C.S (English Composition Society) 即ち「**英文会**」という組織を立ち上げ、21年(1888年)10月14日に週刊機関誌『**NEW BUDDHIST (新仏教徒)**』を創刊し、毎週日曜日に校内で発行された。翌年4月発行の28号まで続いた。

新仏教徒の目的

「諸君は、仏陀の偉大な愛によって生まれた。全ての衆生と喜びを享受し、真理の樹から因果の果実を摘み取り、モラルの庭園で手ずから美味を味わうために。ECSはそのような新仏教徒の目的を成功させるために組織したのだ。」と能海寛が記述している。



英文会(E.C.S)は、新仏教徒運動の原点と位置づけられる活動であった。



哲学館卒業写真M26.7.7

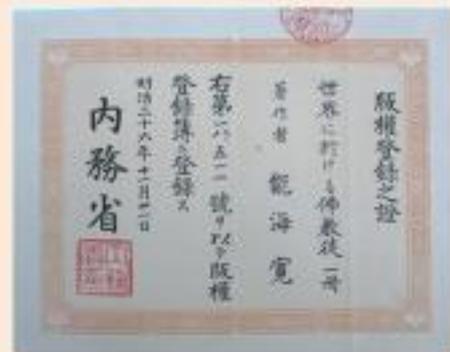
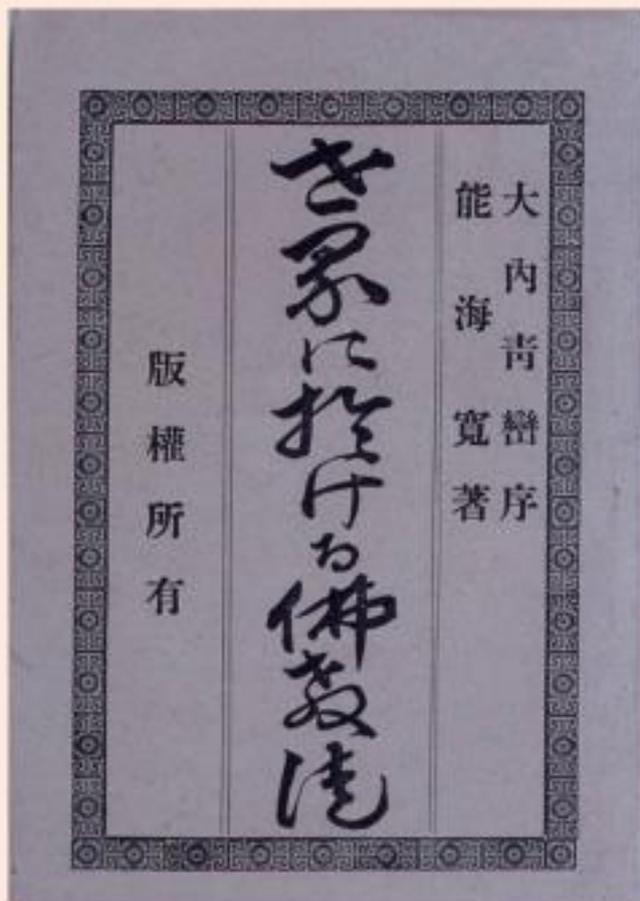
哲学館では、明治24年1月から26年7月まで学んだ。卒業写真は、小石川植物園前で撮られた。

明治22年9月から書き始めた『春秋日記』というタイトルで10年間記録した。関東大震災などで慶応義塾や哲学館の歴史的資料が消滅した。能海の日記によって現在改めて当時の状況が判明している。



能海寛は、明治22年から32年1月まで『春秋日記』として書き続けた。

能海寛の著書



『世界に於ける仏教徒』(M26刊)は、当初、新仏教徒論として発表の予定であった。

寛は、「朝鮮国全羅道光州に設立すべき実業学校創立費並経常費御補助金御下附願」を起草し、この願書は、1月6日を以って聞済に相成り、半額御下附と相成候。外務省機密費中より出づ。と記載している。

この内容は、養蚕道具、桶屋道具、農具類、夜具蚊帳、養蚕小屋、住宅建築用材、日本から木浦までの運賃などが詳細に記され、合計金額1,940円としている。

海外布教に各所に別院や支院を建設し在留本邦人の為にも世話をしたいとの思いであった。

能海寛は多岐にわたって仏教の支援活動を実践した。



中国での記念写真



中国・四川省重慶領事館での記念写真が能海寛の最後の写真となった。

能海寛将来品が市指定文化財に



能海寛の将来品の仏典・仏具・帽子(赤帽)

第一〇〇三号
指定書

名称 員数
能海寛関係資料
三百五十七点

右を浜田市指定
歴史資料 に指定する

平成二十年七月二十三日
浜田市教育委員会